



鎮守の森だより

NPO法人社叢学会ニュース

第37号

2009年1月10日

初心を忘れず

NPO法人社叢学会 理事長・京都大学名誉教授
上田正昭

21世紀に入って早くも9年目の新春である。昨年はアメリカ経済の破綻にはじまる世界的な金融危機の嵐のなか、次々に有力企業がゆきずまり、資本力の弱い中小企業があいついで倒産した。内外の政局は混迷の度をまし、殺人や自殺の件数も倍増した。いまや末期的症状が露呈している。

このような時代にこそ、カミとヒトが鎮守の森を媒体に結合し、自然を畏敬し、自然と共生してきた、社叢の歴史的文化的伝統を再発見すべきではないか。

平成14年の5月26日、京都の賀茂御祖神社（下賀茂神社）の糺の森研修道場において創立された社叢学会は、その目的の中で、「歴史的、共同体的な自然の森の保全・拡充・創出を図ることによって地球環境の悪化をくい止め、都市をはじめとする生活空間の向上を進め、日本国民に自然を機軸とする日本文化への深い自覚を促し、もって国民生活の向上と国際的文化交流の発展に資する」と明記した内閣府のNPO法人である。

改めて社叢学会創立の初心をかえりみたい。昨年6月7日には、島根県出雲市の出雲大社で、第7回の総会ならびに研究大会を出雲大社はじめ関係各位のご尽力によって有意義に開催することができた。翌日の県立古代出雲歴史博物館・日御碕ツアーも好評であった。平成25年の遷宮にさきだって、出雲大社御本殿

の特別拝観が実施されたが、学会員には正式参拝の後、優先的に拝観させていただいた。私は縁あって三度つぶさに拝観することができたが、延享元年(1744)造営の神殿内は造営時さながらであり、天井八雲之図も鮮やかであった(御内殿の天井には雲は描かれずに、実際は七雲)。その感銘は今もなお新鮮である。

昨年11月26日には、韓国政府の招きで、ソウルの東北アジア歴史財団にて「日韓関係史」の特別講義を行った。韓国の代表的な研究者との2時間あまりの討議も有益であったが、私にとって忘れることができないのは、天皇・皇后両陛下のご要望で、11月1日の午後7時から午後9時10分まで、大宮御所で両陛下と夕食を共にし、歴史と文化をめぐって懇談したことである。平成13年1月12日の宮中歌会で、はからずも召人に選ばれ、歌会終了後、両陛下のご下問に回答し、平成15年の秋の園遊会のおりには参加者の列の隅にいた私を、先導の百武式部官次長がみつけて、陛下に申し上げたらしく、列をわけてわざわざお声をかけていただいたことはあったが、まさか共に夕食をいただき長時間懇談するとは思ってもかけなかった。小著『日本人の心』をお読みいただいております。伝統文化や百済の武寧王・聖明王、白村江の戦いなどについてもご質問があった。本会理事の井上満郎京都産業大学教授に陪席してもらったが、そのお励ましに応じて、なお一層の努力を積み重ねたい。



『源氏物語に』おける社叢 ～北山のなにがし寺について～

講 師 片岡 智子(社叢学会理事・ノートルダム清心女子大学教授)
コメンテーター 田中 充子(京都精華大学教授)

源氏物語と社叢：聖なる森、聖なる自然が社叢ということになるが、平安京は山々に囲まれ、源氏物語に登場する自然は、ほとんどが寺や神社で、全て社叢といってもよいほどだ。例えば、夕顔の巻で、東山の清水寺の近くの僧坊で夕顔を茶毘に付し、葵の巻では、葵上を鳥辺野で葬送している。北山は、若紫の巻で、なにがし寺に光源氏が病氣療養のために訪れ、そこで後の紫の上に出会う。これは源氏物語にとって重要な場面になっている。須磨の巻では、須磨を退去する前に、北山の奥にあると設定される父、桐壺帝の御陵に詣で、賀茂神社を遠くから眺めて祈るところが出てくる。一方、西山の方は、若菜上の巻で、光源氏の兄の朱雀院が西山のある寺に出家して籠っている。このように山だけでも、全て網羅したというくらい出てくる。これにていて高橋文二・駒沢大学教授が、「平安京を囲む自然は、日常性とは異なった深い意味合いを持って描かれているのではないか(略)」と述べているが、これこそ、源氏物語を社叢という側面から捉えると解決できるのではないかと思い、源氏物語と社叢を考えるきっかけになった。

源氏物語を見ていくと、重層性、複重性というか、様々な要素が多重にかさなっているのだが、物語空間の基底として、社叢という概念をだすとよく理解できる。聖なる森、聖なる自然としての社叢という概念は、日本の文学を考え、理解するうえでも、適切な概念だと思う。中でも源氏物語では北山がとくに重要だ。

北山のなにがし寺：若紫の巻に登場する北山のなにがし寺は、原文では、「…北山になむ、なにがし寺といふ所にかしこき行ひ人はべる(略) 高き所にて、ここかしこ、僧坊どもあらはに見おろさる、ただこのつづら折りの下に…」とある。ここで“なにがし”寺とぼやかした表現は効果的で、これはどこか？と興味をそそると同時に、この世にはない場所を物語として設定する可能性もあり、現実にあるのかなのか、などと、想像をかきたてられる。原文によると、京の二条を暁に出発し、やや、山深くはいったところで、京の桜の盛りは過ぎたが山の桜はまだ盛りでなどという対比もある。そして、峯高く深き岩の中に聖が居て、加持を行ううちに日が高くあがる。ということは、夜明け少し前に到着しているということで、京都からの距離感が感じられる。

さて、北山のなにがし寺はどこなのかについては、ほぼ通説になっている鞍馬山説の他に、大雲寺(岩倉)説、金閣寺付近(北山殿西園寺・神明寺)説、鷹ヶ峯の地(興隆寺・霊岩寺、高岑寺)説、さらには言葉の表現性の上に成り立つ、言語的な時空だとする説など諸説あるが、最近では、文学的な表現として読むべき「複合

した文芸空間」であるという説が有力になってきた。鞍馬寺をもとにしなが、金閣寺付近の美しさなども加味するなど、様々な要素が組み合わされた空間だということだ。こうした視点から本文を見ると、北山のなにがし寺は、山の社叢として把握できる。

山の社叢：北山のなにがし寺は、鞍馬寺を彷彿とさせながら、さらに奥に存在する、という設定になっている。しかもそれは生命再生の聖地、源氏が病を癒す聖なる祈りの地である。さらに深山幽谷であるということから神仙的な要素があるとも言われているが、ここで最も注目したいのは山桜だ。これは神仙思想を表すシンボルで、単に山に登ったら咲いていた、ということではなく、聖なる桜として都の桜と対比させているのだと思う。そう考えると、歌枕としての吉野の存在が浮かび上がってき、これはさらに考える必要のある重要な点ではないかと思っている。

結局紫式部は、なにがしの寺を、方向は北山の方にとり、誰もが知っている鞍馬寺を思わせながら歌枕の手法を物語にもちこんで作りあげ、設定したのではないか。さらに神仙的要素をあげれば、垣間見の場面は、仙境で美しい人に出会う『幽仙屈』という中国の小説を換骨奪胎したようで、ユートピアのような様相を呈している。神仙境が、垣間見の発想とともに、さらなるユートピア的空間に作りあげられている、ということだ。

物語の基底をなす社叢：さらにこのあと、北山から都を遠望しながら、海の話をするところが出てくる。なぜここで海がでてくるのかと思うが、それは古事記以来の山と海を世界の端と捉える世界観を取り入れているからだと思われる。北山の高いところで「明石の浦の「海竜王の后になるべきいつきむすめ」の噂話」が出てきて、後の明石の君の伏線になるが、ここでは、背景に海の社叢としての住吉神社が登場してくる。

北山のなにがし寺は物語世界の基底としての山の社叢として設定され、そこで光源氏は病が治り、さらに後の紫の上と出会う。一方、しだいに海の社叢の話が始まるが、これが、須磨、明石で住吉神社のある住吉の海の社叢。こういう、海の社叢も思わせながら、紫の上系の物語の始発のところで、紫式部は物語りの基底になる空間を山の社叢に設定したのではないかと考えられる。源氏物語は、一点、何かを取り払うと、単なる好色小説だと言われても仕方ないような世界を描いている。しかし、そこに堕ちないように、底支えているのが社叢だと思う。そうした意味からも、源氏物語においては社叢が非常に重要な働きをしていると考える。(文責：事務局)



穂高神社の祭祀と社叢・奥宮見学会

講 師：小平 弘起(穂高神社宮司)
飯沼 冬彦(安曇野市文化財保護委員)
案 内：保尊 勉(穂高神社禰宜)
コメンター：園田 稔(社叢学会副理事長・京都大学名誉教授)

小平弘起宮司：穂高神社は、穂高見神(中殿)、綿津見神(左殿)、瓊々杵神(右殿)を御祭神とし、別宮には天照大御神、若宮には安曇野連比羅夫命、相殿には信濃中将(御伽草子のものぐさ太郎)を祀っている。現在の御本殿三殿は元々一殿であった。明応10年(1501)の造宮の際には三祭神を一殿に奉祀し「大宮」乃至「大宮御宝殿」「御宝殿」と言っていた。本宮は長野県安曇野市穂高に御鎮座し、創建年代は記録になく詳らかではないが、延喜式神名帳では名神大社に列せられる古い社格を持つ。奥宮は長野県松本市安曇上高地明神池畔に御鎮座し御祭神は穂高見命で、日本アルプスの総鎮守、海陸交通守護の神として崇敬されている。また、嶺宮は北アルプスの主峰、奥穂高岳の頂に祀られている。安曇野はフォッサマグナ西縁の糸魚川静岡構造線が南北に貫き、西側に北アルプスが聳え、東側は中央高地帯、両高山帯に挟まれる地域である。そして、梓川、犀川の西岸から高瀬川流域の最南部にかけて広がる扇状地をなしている。穂高神社は沖積層湧水地帯の扇状地の扇端部に位置する。毎年9月27日には御船祭が盛大に執り行われている。現在拝殿の増改築が大詰めを迎えており、平成21年5月上・中旬には大遷宮祭が行なわれる予定である。

飯沼冬彦氏：信濃には郡名、郷名には「シナ」のつく地名が多い。例えば仁科、埴科、更科、明科、豊科で、これは「級坂(シナサカ)」、つまり段丘の「段」を意味し、諸河川に沿った段丘状の地を意味するのではないか。これらは扇状地で、湧水の豊かな地である。古代北九州で航海技術者として栄え、四国、中国、近畿、中部へと移動した綿津見神の子、穂高見命を祖先神とする安曇族の一部は、糸魚川から姫川の谷を遡り、この信濃国安曇野を安住の地と定め、衣食住等人間生活の基礎を築き固めてきた。安曇族は生業の航海漁労から稲作農業に転換しながらも、本来の漁労技術を生かして河川での川漁を発展させた。また安曇野は複合扇状地であるため、扇央部の地形により、河川の水の伏流から地下水位が低く土地が潤わないため水田の開発には向いていなかった。そこで堰(安曇野では用水路のこと)を開削し、水田の開発を発展させていった。安曇族はこの地を開拓し安曇文化を形成してきた。安

曇野の地名はこの地を拓いた安曇野氏に由来している。槍ヶ岳から上高地明神池を流れる神聖な梓川は松本盆地諸河川と合流し犀川となり盆地の土を潤してきた。

昔の穂高神社社叢は木が鬱蒼と茂り、暗くて怖いイメージだった。穂高神社一帯は比較的自然性の高い植物を持っていて、社叢の豊かな神社である。社叢の豊かな神社はこのあたりでは穂高神社のほか、三郷村の住吉神社、松本市梓川の大宮熱田神社、長野県大町市仁科神明宮を挙げられる。

穂高神社の重要神事として「式年大御遷宮祭」「本宮例大祭(御船祭)」「奉射祭」穂高神社奥宮では「例大祭(御船神事)」がある。穂高神社の造営や祭祀は古代においては安曇野氏という血縁集団、平安時代には安曇郡の荘園化にともない、荘園の庄司や領主によって地縁的に信仰され、維持されるようになった。式年大御遷宮祭は歴史的時間を越えて原初の時が今に再現されることを歌った歌「みあらかはむかしにたちぞまさりぬる 年のはたちをはたちかさねて」(御巫清直家集)にその本義が表されている。

上高地・穂高神社奥宮見学会：松本盆地の田に流れる水の源は聳え立つ北アルプスの山々であり、その山は水分神であった。車道の終点のバスターミナル「上高地」から梓川岸を河童橋方面に歩くと、目の前には穂高岳が堂々と美しい姿を見せる。河童橋から梓川を遡れば秀麗な明神岳のもとに穂高神社の奥宮は鎮まり、針葉樹林に囲まれその奥には碧水の明神池がひろがる。上高地は明治以前、「神垣内」「神合地」「神郷地」と言われていたようである。穂高神社は安曇野の開拓神、農業神であり、とくに稲作の神としても信仰されている。例大祭の御船は近くから見ると岩のように見え、遠くから見ると山のように見えるという。山の神、祖霊はこの神座に招かれ古のまま穂高の町を渡御する。御船祭では奥宮背後の明神池に龍頭鷲首船2艘を浮かべる。私たちも2艘の神船に乗船させていただいた。水面に映る明神岳は美しく、高島東水翁の歌「卯の花や御嶽は雪の白幣」は、神の山明神岳の春、残雪の形が山に幣帛がかけられているように見えるところから歌われた。約2時間をかけて明神池とその周辺までの散策を楽しんだ。

文責：大畑 孝子

次回予告【第34回関東定例研究会】

- ◆日 時：2009年2月28日(土) 14:00~17:00
- ◆場 所：國學院大學渋谷キャンパス
- ◆テーマ：森林の癒し効果
- ◆講 師：香川 隆英(森林総合研究所環境計画研究室長)
- ◆コメンター：奥富 清(社叢学会副理事長・東京農工大学名誉教授)



折口信夫先生の芸能史研究と「雪まつり」シナリオ
 講師：三隅治雄（(財)民族芸術交流財団理事長）
 上映映像：新野の雪祭りー神々と里人たちの宴ー
 (ポーラ伝統文化振興財団制作、30分、1981)／雪まつり
 (岩波映画製作所制作、20分、1953)

雪祭りの行われる長野県下伊那郡阿南町新野は、三河、信濃、遠江の国境が接する地にあり、花祭、田楽(三河三田楽、田峰・黒沢・鳳来寺、西浦の田楽など)、田遊び、霜月祭、念仏踊りなどの芸能の豊かな土地である。新野は標高700mの高原盆地であり、千石平とも呼ばれた。雪祭は1月14日の小正月に行われる。明治期までは田楽も行われていることから、「田楽祭」また単に「ご神事」とも言われていた。このお祭りは豊年のしるしとしての雪を神前に供え、豊作を祈願するお祭りであるという。

大正の末年、新野の祭り調査に入った折口信夫に、祭の説明をした仲藤増蔵の「このお祭には雪がなくてはならない」という言葉から、折口はこの祭を「雪祭り」と名付けたという。折口と村の人々との関係は必ずしも良好であったわけではなかったが、それでも、「毎年新暦の正月13日になると、今一度、信遠三の境山に囲まれた、あの山村の祭に会いたくてならない気がする」とその後に記している。

昭和27年に岩波映像の撮影計画が旦那村(現・阿南町新野)に伝えられると、村では折口にシナリオを書いてもらおうと、12月に仲藤増蔵が雪祭りの詳細を書かれた本をもって、折口の家を訪ねた。折口は当時病気がちだったが、一晩で書き上げた。この映像の演出を務めたのが後の映画監督羽仁進であった。折口がこの映画で、必ずこれだけはやってくれと頼んだ場面は、雪祭りの謂われで、旅の神人が面箱を携えて倉の平で休んでいるシーンを冒頭に入れることを強く主張した。一説には西浦の観音堂の田楽面を新野の大工の棟梁が盗み出して、途中婆さんを脅かした際、鬼の面をひとつ忘れて帰った。その鬼の面はその後、新野の雪祭りがあると自分の兄弟や仲間を懐かしがってゴトゴトと鳴っていたという。このような伝承は、村から村へ、異郷から異郷へ、芸能、祭というものが伝えられたことを語っている。常に神面を担ぎ歩き宗教芸能者は、面をもって土地の人を靡かせ、土地のものに自らなり、そこに人と共に芸能が定着する。

池田弥三郎は『雪祭りと芸能史』のなかで、「雪祭りの存在がなかったら、折口先生の芸能史は、多少変わったものとなっていたかもしれぬ」と記している。折口信夫は、雪祭りの撮影が終わって後、昭和28年9月3日亡くなった。現在、伊豆神社の参道脇には、「遠き世ゆ 山に伝えし神祭り この声をわれ聞くことなかりき」という折口の歌碑がたっている。雪祭りを伝承する伊豆神社の森は山の神が里へ降る目印となっているのだ。

秩父夜祭りに見る自然と儀礼の構造

講師：藺田稔（社叢学会副理事長・秩父神社宮司）
 上映映像：秩父の夜祭ー山波の音が聞こえるー(ポーラ伝統文化振興財団制作、34分、1990)／秩父夜祭(國學院大學映像民俗学研究室制作、7分、2007)

埼玉県西部、秩父盆地の外縁部をなす山稜は分水嶺で、盆地の北側から流れ出る荒川は、この山稜から集まってくる全ての水をひとつに纏めている。秩父の集落は、この荒川の支流に沿って散在し、支流を遡っていくと、集落の鎮守様が祀られている。秩父の景観の特徴は、盆地内側の山の傾斜が厳しく、山々が重なり合っていることで、この地形的条件を克服し、何世代もかけ開拓しながら秩序ある自然風土を作り上げてきた。これは宗教的に意味付けられた文化化した自然であり、秩父の人々の心のふるさとであり、日本の原風景である。

秩父盆地に住む人々の心の中心にあったのが、南側に立つ武甲山で、秩父のどこからでも眺めることのできる山である。その武甲山を神体山とするのが秩父神社だ。12月3日の秩父夜祭は、武甲山の男神と秩父神社の女神(妙見様)が年に一度、お旅所で会うという神婚の物語が、中世以来語られてきた。大正時代までは、男女が恋を交わす場でもあったという。秩父の夜祭は、春に里に降りて田の神になり、豊作を見守った武甲山の山の神が秋には収穫を終えて再び山へ帰るという原型を残している。つまり秩父夜祭は、秋全ての収穫が終わり、武甲山の神が山へ帰られる新嘗祭の意味を持つ。

春祭は4月4日(旧暦2月3日)で、お田植神事という。この神事で最も大事なのは、まず水神様をお迎えすることで、御幣に神を移し行列を組む。それから水の供給口である秩父神社の鳥居の下の入り口に龍の形をした藁作りの水口を作り、その頭に御幣を立てて神事を行う。藁の水口は、撤下の後大事に取っておき、夜祭の御神幸の先頭の大きな榊に(古い形のヒモロギ)巻きつけていた。この武甲山の神、龍神を田植えの始まる前に迎え、全ての稲の行事が終わって山に帰っていただく。その最終段階に秩父夜祭がある。これは、晩稲の収穫を待って、全ての農作業が終わった時点で行う古い形の新嘗の祭である。

現在の都市や村も風土的な特徴がほとんど無くなっているが、祭には特徴がある。荒川筋では、最上流地帯の秋の収穫がおわった最後の絹の取引が大々的に行なわれる。秩父は一と六の日は市で、正月を目指し市が中仙道を下って、江戸に入る基点にある。つまり12月1日から6日に、祭と市が秩父から荒川沿いに熊谷に出、1日ごとに中仙道を下っていく。大宮の氷川神社に大湯祭(十日市)、浦和の調神社(十二日市)、最後に練馬、江戸にはいつて歳の市になる。一年の時間と関東平野という空間の中に秩父夜祭はある。

文責：大畑 孝子



富士山信仰と世界遺産について

話題提供 中村 徳彦(富士山本宮浅間大社宮司)
二又川直之(富士宮市世界遺産推進係長)
モニター 岡村 穰 (社叢学会理事・名古屋市立大学教授)

快晴。名古屋を出発して大井川を渡る頃から既にカメラを構え放し。休憩に入った富士川SAで、雪を戴いた雄大な富士山を堪能し、ETC出口から富士川沿いに上がり、右折して橋を渡るとそのまま直進で、駿河一宮・富士山本宮浅間大社前に着いた。昼食に、B級グルメの祭典「B-1グランプリ」の第1回(2006)及び第2回(2007)のグランプリに輝いた「富士宮やきそば」の独特の食感を味わって病み付きになった。豪壮な朱塗り・檜皮葺の社殿の数々、富士山からの伏流水が湧き上がる特別天然記念物の湧玉池、「第1回社叢百選フォトコンテスト入選作品」の展示もあり、盛り沢山の感動の中を正式参拝、中村宮司の案内で境内見学、会場の参集所へ向った。

神様は火口に：浅間神社は、噴火する富士山の麓に、水にご利益のある神様をお祭りしたのが始まりで、昭和3年(1928)の調査では全国に1,317社。富士山が見える範囲に多く、東海道上に943社、最も多いのが千葉県の上野市で257社、静岡県は3位の150社。平成2年(1990)の神社庁の調査では、末社を含めて2,501社、浅間神社と名を冠する神社数は411社。

6km山側に山宮浅間神社があり、斎場・籠屋(こもりや)のみの最も古い形が残っている。

富士登山は平安時代に始まりられ、室町時代末期に描かれた絹本着色富士曼茶羅図(重要文化財、縦186.6cm・横118.2cm)には、人々が西方から来て東海道から大宮に入り、浅間神社で禊ぎをし村山で水垢離の後、山中の社堂を参詣しながら登山する様子が描かれている。富士宮市街から見ると、山頂は最高地点の剣ヶ峰を中心に三尊仏の形をしている。昔は登山道の傍らに屍が累々と横たわっていたようで、薄着での富士登山の厳しさを伝えている(曼茶羅図(写)は、数日前に社務所に申し出れば拝観可能)。

1779年に徳川幕府が富士山八合目以上を浅間神社奥宮の境内地と認めたが、近年になって山梨県側と境内地を分けるべきだとの係争があった。1974年の最高裁の判決で「神は火口に在り」との訴えが認められ、2004年に火口のある富士山八合目以上の浅間

神社奥宮の境内地が確定した。

世界文化遺産登録へ：世界遺産条約は1972年にエジプトのアスワンハイダムによって水没するアブシンベル神殿の保護がきっかけになって締結された国際条約であるが、日本は1992年になってようやく締結した。2008年7月現在、878件の世界遺産(内、文化遺産679件・自然遺産174件)が登録されており、過剰であるとの判断で、近年は登録数が減っている。

富士山は1992年以来、世界自然遺産暫定リスト入りを目指していたが、2003年5月に落選し、翌6月から世界文化遺産登録を目指すことになった。中曽根康弘氏の呼びかけで2005年4月に「NPO法人：富士山を世界遺産にする国民会議」が発足してから動きが活発になり、2006年に静岡・山梨の登録推進合同会議が発足した。既に5合目以上の登山道沿いにゴミはない。

富士山は日本一の山であるが、色々な富士山があって自分の見ている富士山が一番良いという思い込みがある。ユネスコの世界遺産委員会が定める「文化的伝統の物証」「信仰・芸術などとの関連性」「建造物・景観」の3項目の評価基準を参考に、構成資産の選定・周辺環境整備を進める必要がある。
(文責：岡村 穰)



次回予告【第21回中部定例研究会】

- ◆日時：2009年3月7日(土) 13:30~16:00
- ◆場所：洲原神社社務所(美濃野市洲原468-1-1 TEL0575-32-2363)
- ◆テーマ：洲原(すはら)神社の社叢について
- ◆話題提供：横家 勉(洲原神社宮司) 他
- ◆モニター：未定

事務局から

- 謹んで新春のお慶びを申し上げますとともに、会員の皆さま方のご健勝をお祈り申し上げます。関西地方では大晦日になって厳しい寒さに見舞われ、元旦はそれこそ身の引き締まるような冷え込みで、この寒さこそが当たり前なのだと、渴を入れられた思いがいたしました。「温暖化」の中で、鎮守の森からいささかなりとも声をあげ、何らかの实践活动を始めていければと存じております。本年も何卒よろしく学会活動にご協力賜りますようお願い申し上げます。
- 年次総会は下記のとおりです。例年通り研究発表者を募集しております。奮ってご応募下さい。出雲は神話のふるさと、多数のご参加をお待ちいたしております。
- 関東支部を移転いたしました。新住所は下記です。なお、電話、faxは変更なしです。

- いよいよ2月に社叢インストラクター認定試験を実施することになりました。目下、試験問題の作成など、検討委員が詳細を詰めております。ご関心の向きは事務局までお問合せ下さい。

編集後記

今回も一言！ 年末恒例！理事忘年会で、今年も豪華景品が当たる！！福引を決行！ 年末ジャンボ宝くじを入れよう！と思って買いに行ったのに「販売は昨日まで！」だって。え、当たたらフジオカが1割、学会が1割貰おうと思ったのになあ。。。一攫千金のユメが、、、嗚呼。ちなみに豪華景品！の一端をご紹介しますと、干支模様（ミッキーマウスみたい！）飴でしょ、年末大掃除用エプロンでしょ、お散歩用のしょうちゃん帽でしょ、300円で買った3億円ガムでしょ。小学生のプレゼント交換か！？（藤岡 郁）

年次総会の概要

◆日 時：2008年6月7日(土) 10:00~19:00

◆場 所：出雲大社社務所研修室

◆スケジュール：10:00~10:45 年次総会
11:00~12:30 研究発表会
13:30~17:00 シンポジウム

基 調 講 演：上 田 正 昭・社叢学会理事長（京都大学名誉教授）

パネリスト：上 田 篤・社叢学会副理事長（京都精華大学名誉教授）など

17:30~19:00 懇親会（要参加費：1人=3,000円）

※ 大会翌日の8日（日）には、日御碕や上田理事長が名誉館長を務める島根県立古代出雲歴史博物館などの見学を計画しています（有料）

入場無料

神話の国でお会いしましょう！

研究発表者募集！

テーマ：社叢に関する理論的研究
社叢の保存・拡充に関する実践的調査研究
発表時間：20分（報告15分+討論5分）
応募締切：2008年3月末日必着
応募要領：住所・氏名を明記の上、発表内容を300~400字にまとめ、E-Mail、FAX、郵便で本部事務局に送付

* 応募者多数の場合は担当理事で協議し、4月中旬までに諾否をお知らせいたします。
* 発表者は、発表当日に配布する資料を4月末までに本部事務局にお送り下さい。

発行人 社叢学会事務局 〒604-8115 京都市中京区雁金町373番地みよいビル303号
TEL 075-212-2973 FAX 075-212-2916
URL <http://www2.odn.ne.jp/shasou/> E-Mail shasou@ams.odn.ne.jp
社叢学会関東支部 〒141-0031 東京都品川区西五反田1-10-8-415
TEL 03-5875-8423 FAX 03-5875-8321 E-Mail shasou@macrovision.co.jp